



思いを紡ぐ 優しいあおば

あおば支援学校 学校だより 令和3年10月 (第17号)

『地域と学校』



校長 よこざわ たかひろ
横澤 孝泰

あおば支援学校の開校にあたって、校長として、「地域に愛され、地域に育てていただけること」、「誰もが楽しめる学校～親しみやすく、ちょっと面白そうだと誰からも感じてもらえること」を目指してきました。そして、本校は、この地域のコミュニティの拠点となることを目標の一つにしています。

8月27日に、本校の学校運営協議会の地域連携部会を開催し、特別支援学校が地域とどのようにつながっていくのがよいか、という議論をしました。ある委員さんから、『小学校や中学校は、その地域のほとんどの子どもがその学校に通ったり、その親は保護者として学校に関わったりするし、保護者自らがその学校の卒業生ということもあたりして、その地域に住むことで、自然とその学校に密着し、愛着が湧く。でも、特別支援学校は、どうでしょうか。』というお話をいただきました。確かに、特別支援学校は、地域の方からは、あまり親近感がない、どのようなどころで、どんなことをしているのか、よく知らないという話も出ます。ごく限られた人との関係が多く、結果、特定の人しか集まっていない、ということもあります。それでも、特別支援学校は、地域とつながってきたと思っていた私は、この話に、正直驚きました。もしかしたら、特別支援学校は、地域に密着して活動してきたというのは幻想で、実は、地域との密着性が弱く、関係性も薄かったのではないだろうか。

学校の教職員はいずれ入れ替わります。校長もしかりです。ところが、地域は住む人が変わることがあっても、地域のコミュニティとしては受け継がれていきます。そのような中で、人が変われば方針も変わり、関係性も薄れていくといったことで、せっかく築いたことが、続かないということがあったのではないのでしょうか。

この学校で地域のコミュニティが形成され、継続していくために、この学校をどのようにしていくのかを、地域の方々と一緒に考え知恵を出し合うことが重要なのではないかと、そのことで地域にとって身近な学校になっていくのではないかと考えています。

本校の施設などを地域に提供し、地域の方々に、この学校に慣れ親しんでもらうことで、愛着が湧き、誰でも自然と集まれる場となります。その場には、常日頃から、ちょっと楽しい小ネタが提供され、それがみんなの学びにもつながる。「ひと・もの・じかん」を共有することで交流が生じ、お互いの活動が生まれ、協働へとつながる。学校のために、何かをしようと思ってくれる人が多く集まることで、様々な資源が集積されていきます。その資源を活用していくのが、今年度設置した地域学校協働本部の役割と考えています。

本校の地域学校協働本部では、ボランティア活動のネットワークを形成する活動を始めました。これによって、学校と地域を結びつけることができます。さらに、この地域学校協働活動は、本校の保護者と地域を結びつけていくことにも大きな意味をもちます。保護者が、本校に在学中に地域と結びつくメリットは、まず、学校の周辺地域とつながっていく方法を学ぶことで、居住地の地域とのネットワークにもつながることができ、さらに、入りやすくなるきっかけづくりにつながるのではないかと期待しています。

秋がやってきました。



中2年生

音楽の授業の様子です。

ボラーレの曲に合わせてマラカスを大きく振ったり、ピタッと止まったり、盛り上がりました♪地域の方からいただいた手作りのひょうたんマラカスも素敵な音色を奏でていました♪海の曲が流れる中、青色の大きなスカーフを皆で持って、「ゆ～らゆら」小さい波や大きい波を表現しました。ゆったりとした心地よい時間が流れました。

毎日、「今日の給食はなにかな？」と楽しみにしながら授業をがんばっています。お手伝いにきてくださる介助員さんともどんどん仲良しになっています。好きな物だけでなく、苦手な物にも挑戦しています。いつもおいしい給食をありがとうございます。



小1年生

地域貢献についての学習を行っています。「地域タンケンジャー」として、地域を探検しながら、近くのお店や学校、自然、危ない個所など無いか、メモを取り、それを元に地図を作ったり、地域コーディネーターさんから地域貢献のお話を伺ったり、地域のために何ができるか、活発に意見交換しました。「また、やりたい！」と生徒たちはやる気満々でした。今後は、「地域タンケンジャー」から「地域コウケンジャー」に変身し、活動をしていく予定です！



高2年生

